



夢はオリンピック選手

秋空に沸く歓声!!

竜丘地区市民運動会

十一月三日の文化の日、平成二年度竜丘地区市民運動会が開催されました。この十一月三日という日は晴れの特異日というだけであって、朝からみごとに晴れ上がり、絶好の運動会日和となりました。

今年も十月ははじめから実行委員会がもたれ様々な議論の中から内容が決定されてきました。

種目の中では例年の内容から大きく変えられ、目新しい種目が多くお目見えする事になりました。

大きく異なったのは綱引きが得点種目からはずされ新川で東西に地区分けをして、東西対抗戦となり、勝者側の選手にはウルトラクイズイン竜丘の復活券を配布し、ウルトラクイズの方と両方楽しめるという企画があった事。又、玉入れについても赤と白の二色の玉をまぜて配り、かごの中



籠を持つのも大変

- ▼去る十一月三日文化の日恒例の竜丘市民運動会が竜丘小学校に於いて開催されました。昨年に続き新しい種目も取り入れられ、晴れ陽が高くなるにつれ運動会の雰囲気は盛り上がりを見せました。
- ▼結果は次の通り、一位時又、二位長ノ原、三位桐林、四位...
- ▼駄科、五位上川路でした。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田 ☎22-5353

人口 6,363人
男子 3,060人
女子 3,303人
世帯数 1,799戸
(2年12月末現在)

に入った玉の内、自治会長がクジを引いて当てた色のみを数えて得点にするという工夫がされました。同じく内容が少し変わった物でゲートボールがありました。例年ではゲートを設けて規定の玉を打ってゲートの通過数で得点を競っていたものが、今年はゲートボールダツという事で、ゲートがなくなり三重の同心円の中心をめがけてボールを打って、ボールの止まった所の得点を加算して順位を決めるといったように様変わりしました。

このように実行委員の方々が頭をひねりながら計画し、多くの方々がかわって準備されてきた運動会がいよいよはじまりました。

朝六時五十五分に採火された聖火は桐林八幡社を出発し、桐林・駄科・長野原・時又・上川路と竜丘を一週した後、開会式の行なわれているグラウンドに入っ

きました。そして聖火台に点火され競技開始。おなじみ小学生のかけっこからはじまりました。

朝の八時半開始というところで少し早かったためか、はじめのうちは参加者が少なかつたのですが、陽も高くなり、暖かくなるにつれて各地から人が集まりはじめ、競技も種目を追いつけて盛りに上がりをみせてきました。

最初に書いた様に今回の

種目は、今までおなじみのものや、ルールが変更されより多くの参加者が楽しめるように工夫されているのか、競技に参加する人もそれを見る人も楽しめるようになっており、採点種目には大声で声援を送ったり、手に汗を握って見たり、大笑いをしたり、と楽しい一日でした。

地区ごとの優勝争いも最後の年次リレーにもつれてみましたが、順位はともかく皆さん、ご苦労様でした。

感動のステージ

田楽座公演

去る十月七日に、竜丘小学校体育館において田楽座公演が行われました。主催は竜丘青年会、五年ぶりの公演となりました。

当日はあいにくの雨降りでしたが、大人から子供ま

で大勢の人が集まりました。舞台が、ステージと会場の中央に設けられ、観衆とのやりとりがあったり、目の前で繰り広げられる迫力のある太鼓や踊り、そして話しのつなぎのテンポの良

さが調和して、観る人に感動を与えてくれました。

十年間続けてきた「だいたいゆずり」というテーマが今年で終る予定で、又一般公演は一年ぶりとなって、演ずる側の気迫の伝わ



響け 青年の心意気

る、出来あがった舞台を観たという感じでした。

主催者の青年会では、この公演を決めるに当たって七月末に田楽座に小公演を行ってもらい、会内での公演への理解を深め、その中から自分達も太鼓をやってみたいということになり、伊那市の田楽座へ何度も練習に通ったそうです。

青年会全員が舞台上に上ったのが、今年で終る予定で、又一般公演は一年ぶりとなって、演ずる側の気迫の伝わ

この度の公演は、地域の人達が一堂に会して生の舞台に接する事が益々少なくなつた現在、熱気と感動を共有できた貴重な時間となりました。

最後に、主催者の青年会から、多くの人達の協力によって成功出来たことに感謝すると共に、今後こそぞって集まれる場、熱くなれるものを創っていききたいとのことでした。

鉛筆について

柔道一筋 四十有余年

駄科 関島政彦さん



竜丘柔道クラブの指導者として柔道を通じて多くの子供達の健全育成にあたり、これ程柔道五段に昇段されました。

昇段審査は去る平成二年一月に飯田武道館で行なわれたもので三月に正式授与されました。審査内容は形(かた)、受身、実技となっており、さらに教師としての指導力も審査の対象となる事です。

又、四段から五段へと昇段するには約十年の期間

も必要だといえます。関島さんは昭和五十四年五十才の時に四段になりやがて十年の期間をかけています。有段者は黒帯となりますが五段は黒帯の中では最上段だそうす。

関島さんが柔道を始めたのは昭和二十四年地元時又のカルニユー光学へ勤め柔

よりも精神力をみがき心を育てるのに最も適したスポーツとして、中学・高校で授業にも取り入れられています。竜丘でも昭和五十三年に公民館主催の柔道教室が開設され、関島さんはそれ以来竜丘柔道クラブの指導者として約十五年間に千人近い数にのぼる子供達と

してきます。同クラブは指導者として十一名の方がおられ、クラブ員の数も市内では伊賀良に次ぐ大きな組織だそうす。大会では三位以下にあまり見ない事がないとの事す。

クラブの代表者として関島さんは、ケガをして苦しかった事もあったが柔道をやっていたのがよかったと思つたのは柔道を通しての子供から大人までの幅広い交流だといえます。

限られた人間関係になりがちな今日この頃の私達です。日本の伝統を受け継ぐ柔道を通して子供達の健康を願って関島さんは今日も柔道場へと出掛け

小さい頃、水田の中に開通した国道一五号線バイパスを見て、黒々とした舗装に、どこまでも続く白いセンターラインが幼な心に異様な光景に映り、こんなに広い道がどこへ通じているのだろうか、ふしぎに思つたことがある。それから数十年、あたりは変貌してしまつた。周辺には住宅が建ち並び、パイパス沿線には店舗、飲食店、銀行、など日常生活をするに不便を感じさせない程のサービス業が集まっている。当時、水田地帯がこのような形で様変わりしていくことを、どれ程の人が想像したでしょうか。

天竜川治水対策に係わる土取り跡地、運搬道路のその後の活用、天竜川堤防沿などを含め今まで以上に早い速度で、竜丘が変わっていくことは事実である。以前の様なその区だけの問題ではなく、竜丘地区全体として捉える必要がある。前年度当初から、自治会と公民館の主管により、竜丘地区基本構想・計画の策定準備が進められてきた。次代の竜丘を一層「魅力と活力に溢れる地域」にしてい

守ろう自然・つくろう環境

—地区主催型 竜丘地区市政懇談会開かれる—



去る十月十七日夜七時より竜丘公民館で行なわれた竜丘地区市政懇談会は、昨年迄と異なり日頃市政に参画する機会のない婦人、青年、壮年等を中心に各地区のかかえる問題をテーマに自由に討議しようという地区主催形式で行なわれた。

田中市長の挨拶に続き、現在竜丘地区のかかえる問題として「竜丘地区の下水道整備」について自治会より提言がされた。当地区は飯田市の中でも人口増加率も高く、今後様々な開発や市街化が予想されるにもかかわらず、それに伴う生活環境の立ち遅れが甚だしく、し尿処理を始め先日の文化祭でも展示された様に家庭雑排水の放流による中河川の水質汚濁は、私達を含め様々な生物の生態にも大きな影響を与えています。しかしその解決策としての下水道施設整備については、現在の終末処理場の位置から竜丘地区は不可能であり、新たな処理方法、施設整備事業が求められています。これらの現状をふまえて懇談の中では、(一)農業集落排水事業(二)特定環境保全公共下水道及び公共下水道事業(三)地域し尿処理施設及び合併処理浄化槽の三つの処理方法が考えられるが、いずれの事業も選択条件が異なり、特に(二)については竜丘では導入困難、現状は(三)の合併処理浄化槽で個々に処理するより他に無いと

言説明がされました。昨年に続いての下水道整備問題でしたが、市側に何ら進展が見られず、既整備地域以外の下水道整備はほとんど無策という実態であり、今後自治会としても益々重要な課題として取り組んで行く事が望まれます。

続いて「竜丘地区の土地利用」について「むとす竜丘」の松下委員長より、いわゆる「桐林上段開発」について市としてはすでに工業用地としての位置付けがされているが、知っての通りこの地域は「ギフチョウ」を始め古墳も多数存在する

極めて自然環境の優れた地域であり、地域ぐるみの保護保存活動が展開されている。そんな中で自分達の住む地域の環境や景観に対し住民自身が目を向け出し、魅力と活力のある地域とは何かを研究、模索し始めており、高速交通網時代を目前にし、企業誘致による「村おこし」から、自然環境、生活環境、社会環境の備わった「まちづくり」へと見直す必要があるのではないかと提言がされ、他の委員より補足として自然を十分に活かした公園づくりや、家族ぐるみで自然に親しめ

参加型の祭典をめざして

竜丘地区文化祭

去る十一月十日、十一日の両日、竜丘小学校に於いて文化祭が行なわれた。

私の作品コーナーでは、地区内の皆さんの書、絵画・手芸・写真等のコレクションや分館作品が所狭しと並べられ、「あれ、あの人が」と感心して立ち止まる姿が見受けられた。

各種団体コーナーでは、動き始めたばかりの「むとす竜丘」の展示が目を引き、そこでは、活動内容の紹介と、委員の顔写真と将来への夢が掲げられ、委員それぞれの竜丘に対する熱意が感じられた。又、保健補導員会の身近な民間療法と題した展示では、日頃の地道な活動が感じられた。

竜丘昆虫教室のコーナーでは、地区民に守られ親し

まれていくギフチョウと、その生息環境が紹介された。婦人団体連絡協議会のコーナーでは、牛乳パックの回収作業から、ゴミ問題と森林保護を、日頃の婦人の生活サイドから考えさせる内容でした。

油絵教室の皆さんの力作には、その人の作風が感じられ、ただただ感心させられた。園児や児童の作品展では、親にほめられ得意になってはしゃいでいる子供達の顔が印象的でした。

民俗資料館や自由画、考古室の公開では、あらためて竜丘の伝統の重さを感じると共に、もっと広いスペースの確保の重要性を感じました。

体育館では「竜丘の工業展」が昨年より規模を増し

る余熱利用施設等の要望も出された。それに對し、基本構想はあくまで指針であり時代、情勢の変化による見直しは必要である。治水対策の土取り場跡地は代替地として予定しているが、その利用については地元との協議で行なうとの説明がされた。

最後に、市政懇談会も地区によって様々な問題や課題があり、各々地域を大切にしたいという住民の姿勢が見え、大変にすばらしい事だとの市長の所感が述べられ閉会となった。

今回は二時間という時間的な事もあり、充分な討議が出来なかったが、今回をきっかけとして個々の問題について更に議論を深め、私達の住み良い地域をつくらせて行きましょう。

飛ばしでは、親に怒られないので、この時ばかりはと懸命に履物を遠くへ飛ばした。目隠し片足立ちでは、女子が上位を占めた。

今回の文化祭には、竜丘の自然環境を足元から見つめた作品が目を引きと共に自然にあふれた竜丘の将来をじっくりと見据えようと

する気運が感じられた。又子供広場には、子供達の喜々とした顔があふれ、文化祭になくてはならないものとなった。このように、見るから触れる、そしてやってみるといった参加型の文化祭を目指していくことが必要となるでしょう。

去る九月十五日・敬老の日、竜丘小学校体育館に於いて竜丘地区「敬老会」が開催されました。

対象は、満七十歳以上のお年寄り四百八十九人、その中で三十七名の方が八十歳のお祝いを受けられました。長寿者番付も作られ番付された方々はみんな九十歳以上の方々ばかりと元気な方々が多勢おられました。

祝宴に入ると、地域芸能発表が行なわれ、少々入ったお酒も手伝ってか、随所に楽しい笑い声が聞かれる様になり、又、飛び入りコーナーでは、隠し芸や自慢のどを披露していただけるなど、なごやかに初秋の一日を過ぎ、来年の再会を約束し終了しました。

聞くと、鈴岡公園は長野県で一番始めに、公園としての指定を受けた経緯があるそうです。この歴史ある文化遺産を有意義に利用し、区民の憩いの場にしたいものです。

壁面完成 鈴岡公園通り

県道、駄科・大瀬木線の鈴岡公園入口付近に、巨大な壁画が誕生した。これは、現在市へ陳情している公園整備構想の一環として行なわれたもので、整備構想には次の四つの柱があります。

- (1)：道路の愛称
- (2)：壁画
- (3)：冊誌「鈴岡公園今昔ものがたり」の作成
- (4)：公園開発構想

中でも、(1)の道路の愛称は県道駄科、大瀬木線の駄科から、県道知久町・中村線の合流までを限定とし、「鈴岡公園通り」という愛称で、県の認可を受けています。今回の壁画により(2)までが実現し、(3)の「鈴岡公園今昔物語」という冊子については現在作成中で、この一月末には完成する予定です。

しかし(4)の公園開発大構想については、あらゆる点から問題も多く容易ではありませんが、概略として図面が出来上がり、地区から市・県へと陳情中

大壁画



大空に飛べ！私の願い

達者がなににより
—竜丘地区敬老会—

去る九月十五日・敬老の日、竜丘小学校体育館に於いて竜丘地区「敬老会」が開催されました。

対象は、満七十歳以上のお年寄り四百八十九人、その中で三十七名の方が八十歳のお祝いを受けられました。長寿者番付も作られ番付された方々はみんな九十歳以上の方々ばかりと元気な方々が多勢おられました。

当日は、残暑きびしく汗ばむ程の会場に二百余名の参加者が集い、盛大に開催されました。開会の辞、公民館長、来賓の方々の祝辞に続き、小学生児童三人が作文の朗読を行い、参加者



区民の智と汗の結晶。大壁画